「しぜん」A・B　担当　梁川健哲（けんてつ）　高木彬

● 発見を共有する

五感を働かせ、色々な「しぜん」と向き合い、発見をすること。その発見を伝え合い、皆で対話をすること。新しい仲間たちを迎えた初回のクラスでは、しぜんクラスで最も大切なことが何かを、まず確認し合い、認識するところからスタートしました。毎回のように「発見」を携えてきてくれる生徒もいて、今年度もクラス最初の 2〜30 分は、それらの発表と対話で盛り上がっています。発表会が終わると、発見と対話の舞台は教室の外へと移ります。幾度となく通っている石段や園庭の隅に、山の上から見晴るかす景色に、「ひみつの森」の道々に、数え切れないほどの出会いと発見が待っています。

日記を発表したり、持ちよったものを触ったり嗅いだり

「ブランコを思い切り漕いで、高いところから降りていくとき、どうしてお腹がくすぐったくなるのだろう？」というM君の発見を、みんなで体験。体の内側にも発見はあります。

「あ、タケノコだ！」「ふわふわしてる！」「つるつるしてる！」「いい匂い！」「うわっ臭い匂い！」「あ、これ、マイマイかぶりだ！」「見て！こんなに大きな枝が落ちていたよ！」

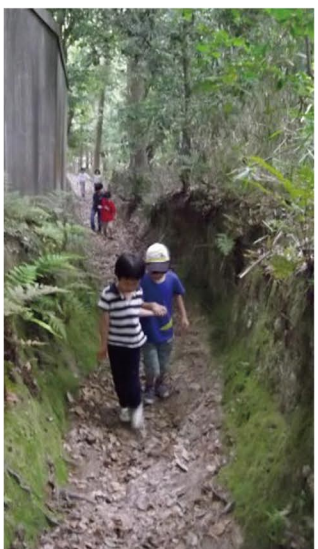
「ここはゆらゆらして楽しいんだよ！」たくましい蔓植物。

ジグモの巣をみつけたよ。アリジゴクの巣はここにあるよ。あ、ここに紅カミキリを見つけたよ。こんなとこに一輪だけ花が咲いてるよ。発見の名人 Ha くん。

葉っぱを光に透かすときれいだということをＹ君が発表してから、見つけた葉っぱを光に透かすことがちょっとしたブーム。「この葉っぱ、点々がたくさんあって面白い！」「こうやって重ねるとかわいいでしょ？」葉っぱの中に、尽きない魅力を発見するみんな。

「森の中を歩いていることは分かったけれど、今どのあたりにいるのか全然分からなかった。」「いつもより音が大きく感じた！」ハチの羽音、遠くのイヌの鳴き声や、もっと遠くの子供の声まで聴こえたという人も。Ｒちゃんによれば「ウグイスが２８回ないてた」そうです。クラスが終わった帰り道の石段で「こんなに遠いのに、街の音が聞こえてくるね」といったＳ君の言葉が印象的でした。

（文責　梁川 健哲、高木 彬）

● 目を閉じて森の中へ

目を閉じる。すると、ふだんは気づかない遠くの音が聴こえる。ふだんは何でもないような肌触りにびっくりする。とたんに目に見えないものへの感覚が研ぎ澄まされます。では、目かくしをしたまま森に入ると、どんなことを感じとれるでしょうか？　想像しただけで、ワクワクしませんか？　今回は、手を引く人と、手を引かれる人に分かれて、しっかり安全を確保しながら、２人１組で森の中へと分け入りました。――もちろん、手を引かれる人には「森へ行く」とも告げずに。